

馬場ひでゆきの活動日誌

No.46

県議会始まる！
課題は山積み！

12月5日から県議会12月定例会が始まりました。5日は知事の議案説明、7日は各会派の代表質問がありました。上越地域と関わる課題についての知事の発言につき報告します。

上越地域の医療再編

知事「上越地域における医療再編は、圏域全体の機能強化を図るという観点から、速やかに中核病院に求められる機能を果たす運営主体や施設の在り方の協議を進め、年度内に具体的な再編の姿を提示したい。」

※ 現在、上越地域の中核病院として機能しているのが県立中央病院と上越総合病院の二つです。知事は、その中核病院を一つにするというものです。どちらか一つだけを中核病院にするのか、それとも新しい建物を造り、そこに医療機材、医療人材を集約して新しい中核病院を造るのかわかりません。いずれにしても、従前の事業形態が今後大きな変更を迫られることになりそうです。また、後者の場合、でかい箱物施設を造ることにどれだけ

の意味があるのか疑問です。

原子力防災対策

知事「原子力災害の住民避難を円滑にするための避難路の整備の促進に向け、国と協議を行った。原発を中心として放射状に6方向へUPZ外まで避難する経路について、土砂災害警戒区域等の法面対策、未改良区間の拡幅、橋梁の耐震化等を優先的に整備していくことを確認した」

※ このように、避難路の整備については国との成果を強調しました。他方で、住民の関心事については、消極的な姿勢で一貫していました。

例えば、地震や豪雪の複合災害への対応について、県内自治体から不安の声が多数上がっている、その不安の払拭を原子力規制委員会に求めるべきではないかとの質問（小島晋議員）に対しては次のとおり。

知事「今年2月に能登半島地震で家屋の倒壊等により自宅に留まり続けることが困難となるケースが発生したことを踏まえ、見直しの議論をお願いした、又今般の意見照会に対し雪下ろしの問題など複合災害時の対応も含めて意見を提出した」

意見を提出したのだから、それで十分だろうという姿勢です。他の議員の「県民の信を問う」



民医連の要請行動に同行（裏面）

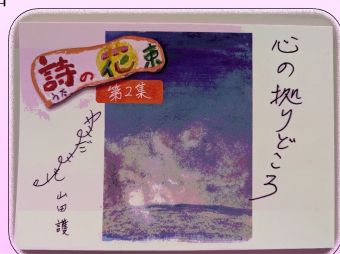
との意味は何なのかという問いについても真正面からの回答はありませんでした。残念です。

第2回受任者の集い

11月30日、原発再稼働の是非を問う住民投票条例の制定を求める直接請求の署名活動の「受任者の集い」が市民プラザで開催されました。70数人が集まり、交流しました。「地域を戸別訪問し350筆集めた」「元の職場の退職仲間10人と頑張っている」「街頭署名でも、立ち止まって署名してくれる人がたくさんいる」との発言がありました。署名を集めても否決されるのではとの意見もありましたが、私は「この署名は厳格な方法で集めるわけだから、たくさん集まれば県も議会も重く受け止めるはず。私も、いろんな議員に声かけて意見交換し、賛成を求めていくつもりだ。反対や否決すれば世論の批判にさらされる。とても意義がある運動だ」と発言しました。頑張りましょう！

山田護さん詩集発行
『心の抛りどころ』

大潟区の山田護さんが「詩の花束 第2集」として『心の抛りどころ』を発行されました。「次から次へと詩が浮かんでくるんだよ」と目を輝かせて話してくれた山田さん。退職後10年間の闘病生活を経験し「人生これからさ」と新しいことにもチャレンジされています。正直で仲間思いでこの土地を愛してやまない山田さんの素直な言葉が心にすっと入ってくる詩集です。当事務所でも購入できます。1冊千円



医療現場のSOS

民間の医療機関も経営難

11月29日、新潟県内の民間病院や診療所で組織される新潟民主医療機関連合会（略称「新潟民医連」）が県の福祉保健部に要望書を提出しました。私も同行しましたので報告します。

（要望事項）

1 医療機関の事業と経営維持のための診療報酬の再改定、補助金等の財政支援措置を行うように、国に対して意見書を提出していただくこと。

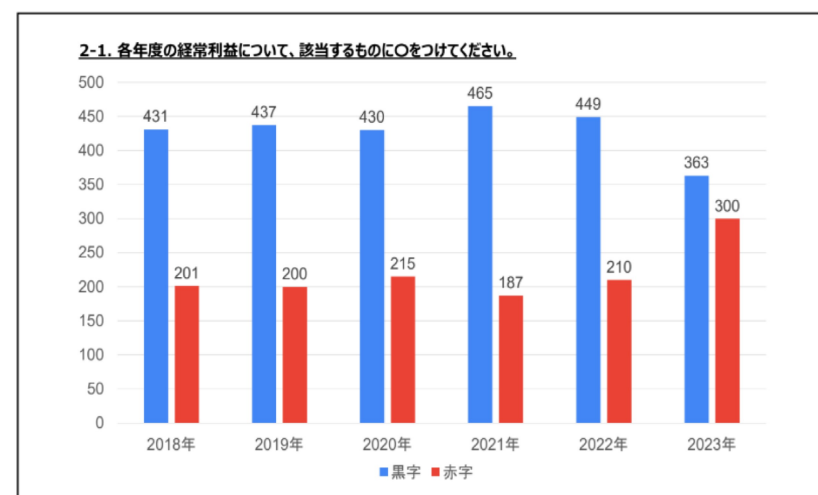
2 国による診療報酬の再改定、補助金等の支援措置がない場合は、地方自治体として、医療機関の事業と経営維持のための補助金等の財政支援措置を行っていただくこと。

公立病院などの医療機関が厳しいことを報告してきましたが、実は民間の医療機関も経営状況が厳しいです。

全国の民医連は、経営状況につきアンケート調査を実施、全国720の医療機関から回答がありました。

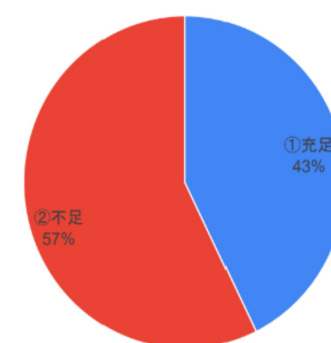
●赤字の医療機関が増

下図は経常利益の推移です。2022年以前は赤字の医療機関が200件前後で推移してい

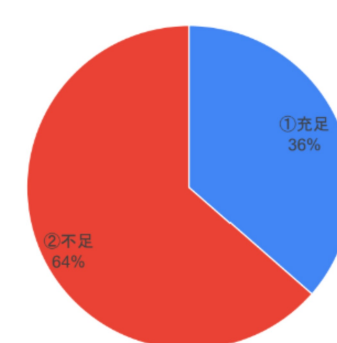


たのに、23年は300件に急増。理由は、①コロナ関連の補助金や加算が一気に減少したこと、②コロナ禍で生じた受診抑制がコロナが5類に移行しても続いている、特に近年の医療費の自己負担増も影響して患者が減少傾向にあるとのこと、③そして、光熱費や食材費などの物価高騰による経費の増加が続く一方で診療報酬が国によって決められるために物価上昇分を価格に転嫁できないということでした。

医師体制は充実しているか？



看護体制は充実しているか？



●医療人材の不足も深刻

調査結果によれば、医療機関のうちで看護師不足との回答は64%、医師不足との回答は57%です（いずれも右の図の赤部分）。新潟民医連の方々と意見交換をしました。

「医療の現場は20年前と今とは全然違う。国の医療費を減らそうという姿勢が明確だ」

「学校現場では、先生が看護師になることを生徒に勧めない。」

「看護師がどんどん退職している、現場は恒常的な人手不足、入院患者さんにも十分なケアができていない、オムツ交換の回数を減らさざるを得ない」

「大病院でも、従前と同じような賞与が出せなくて大変だ、という声を聞いている」

県からは、財源の問題もあって厳しいが、「医師確保の知事の会」でもすべての病院が大変だとの意見を盛り込み、国に伝えたとの回答がありました。とにかく粘り強く！

コーシ
Break

『高田の四季』に泣けた。

11月30日高田木曜会合唱団の定期演奏会に行った。

アンコール曲が「高田の四季」。この歌は、昭和20年に旧制高田中学校の教師だった町田太郎さんが作った同校の寮歌だった。哀愁調のメロディーだが、高田の人々にはずうっと歌い継がれてきた。宴席でもよく歌われた。毎年の高田の花見にはデュークエイセスという男性コーラスのレコードが花見の会場にずうっと流れた。

歌詞がいいんだ。妙高山、南葉山、青田川、榊神社、金谷山、歌を聴くと、過去の記憶と一緒に思い出される。だから、この歌は体の中にしみ込んでいる。ただ、時も過ぎて広域合併もあり、次第に聴くこともなくなった。だから、前奏で「高田の四季」だとわかると、様々な思い出がこみあげて泣けてきた。

木曜会の編曲も四季ごとに考えられていて、歌へのこだわりが伝わってきた。高田木曜会の皆さん、ありがとうございました（イラストは橋爪法一さんです）。



発行責任者：馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイヤパレス高田式番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666

メール kengi-bahideyuki@wind.ocn.ne.jp